

M区 埋戻し作業へ



年明け以降も小牧山では寒さにも負けずに作業が続いています。主郭南斜面の調査区（M区）では1月下旬までに全ての調査、記録作業が完了し、埋戻し作業に入りました。埋戻しに先立ち、確認したお城の面（遺構面）や検出した石垣などを土嚢と養生シートで保護しました。これは、将来計画されている史跡整備工事で再度この箇所を掘削する際に誤って城郭の遺構や

石垣を傷めないようにするとともに、雨水などの影響を最小限に抑えるために行うものです。

お城の遺構や石垣は露出することにより風雨などの影響で劣化が進んでしまいます。それを防ぐには土で覆うこと、つまり埋戻すことが最善の方法なのです。

せっかく掘ったのにもったいないようにも思えますが、貴重な石垣、信長の城郭を後世に正確に守り伝えていくためには必要な保存処置なのです。調査により450年の永い眠りから目覚めた小牧山城の石垣ですが、整備が完了するまでのしばらくの間、再び土の中で休んでもらうことになります。

また、埋戻し作業の進行に伴い、安全フェンスを順次撤去しています。そのため、現地でのかわら版の掲示箇所が若干移動しています。どうぞご了承ください。

小牧山城

は つ つ か わ ら 版

第15号

20130212



石垣保護の状況